

斑点米カメムシ類の発生に注意しましょう

一部の地域で6月中旬から水田畦畔に斑点米カメムシ類の発生が多く見られます。これらは、ネズミムギやメヒシバ等イネ科雑草に多く生息しており、体長は小さいもので5～6mm程度、体色も雑草と似ており肉眼では見にくいため、畦畔周辺を捕虫網で数回振る等して発生状況に注意しましょう。

なお、調査結果は下記のとおりです。

＜水田畦畔における斑点米カメムシ類捕虫網10回振り捕獲数＞ (頭)

調査場所	調査日	アサジギカスミカメ	イネホミドリカスミカメ	トゲシラホシカメムシ	ホソハラカメムシ
八尾市水越	7/4		1		
四条畷市下田原	7/4				
羽曳野市尺度	6/26	5 6	9 5	1	
堺市鉢ヶ峯寺	7/9	2 4	1		
和泉市国分	7/9	3	1		2
岸和田市神須屋	7/2	4			
泉佐野市日根野	7/11				
阪南市貝掛	7/11				
岬町東畑	7/11		1		

＜斑点米カメムシ類防除方法＞

- 出穂2週間前までに畦畔の草刈を行い、斑点米カメムシ類の生息地をなくしましょう。
- 出穂後に草刈を行うと斑点米カメムシ類が水田に移動しますので、出穂後の草刈りは行わないようにしましょう。
- 薬剤散布する場合は出穂10日後に下記薬剤を散布しましょう。

トレボン乳剤(2000倍 21日/3回)

スタークル粒剤、アルバリン粒剤(3kg/10a 7日/3回) 他



△アサジギカスミカメ
(体長5～6mm)



△イネホミドリカスミカメ
(体長5～6mm)